

平成 20 年 10 月 23 日
国立教育系大学図書館協議会
(改訂 平成 22 年 10 月 22 日)

教育情報メタデータ記述指針

1. 目的

各教育系国立大学のリポジトリより教育情報のメタデータをハーベスト(一箇所に収集)し、教育系サブジェクトリポジトリとして、一つのサイトから検索できるようにする。

その際、教育関係の情報を効果的に検索するには、メタデータの中に教育情報に必要な主題項目を記述しておく必要がある。また、一つのサイトで統一的に検索するためには、それら主題項目の記述方法を指針として定め、各教育系国立大学で共有する必要がある。

2. メタデータの取扱

教育系サブジェクトリポジトリでは、効率的に教育情報を提供するため、各機関からハーベストしたデータを以下のように扱う。

- (1) 各機関のリポジトリでハーベストを許可されたデータのうち、教育情報であることを示す接頭辞(「ETYP:」)を **Subject** に含むデータのみ限定して検索を提供する。
- (2) 教育情報に特有の主題項目には、各機関でそれを明示する接頭辞を付与し、各項目別に検索できるインターフェースを提供する。

※ 本指針の対象となる情報は、一次情報をリポジトリで公開しているものに限り、当面教育に関する論文(紀要を含む)・教育実践情報を中心とするが、将来的には教科書等の入力も想定している。

3. 基本方針

- (1) OAI_PMH でのハーベスティング時のデータ形式(metadataPrefix)は、oai_dc とする。
これは、リポジトリシステム標準のもので、各リポジトリでの改修が不要である。
- (2) 教育系情報の主題項目は以下のとおりとする。

- ① 教育情報の種別・教科書指導書の別など
- ② 教科書分類記号
- ③ 学校種別(小学校, 中学校など)
- ④ 教科・領域(理科・算数など)
- ⑤ 学年
- ⑥ 教科書番号
- ⑦ 日時情報(教育実践の実施日, 学位取得年月日など)
- ⑧ 実施機関とその所在
- ⑨ 国に関する記述
- ⑩ 発行所

上記の主題を記述するときは、この指針に従って記述する。

※①は教育系サブジェクトリポジトリにハーベストされる際には必要。他の項目は必要に応じて記述する。

これらをダブリンコアのメタデータのどの要素に記述するかを定義する。

例) 「教科書番号」はダブリンコアの”identifier”という要素に記述する。

- (3) 修飾子については原則として使用しない。

学芸大では、「教科書番号」を identifier.textbookno という項目に入れている。“identifier”が要素，“textbookno”が修飾子である。学芸大のシステムでは、修飾子が違えば別の項目と判断できる。しかし、oai_dc では、修飾子を判断せずに、identifier.textbookno も identifier.URL もすべて、identifier としてくくられて収集される。つまり、「要素」のみが問題となる。そのため要素のみを定め、修飾子はこの指針においては定めない。

- (4) 記述の内容に教育系の情報であることを示す接頭辞を付ける。

接頭辞については、以下の2つのパターンを検討する。

- ① 英語略称(検索に接頭辞自体がかかりづらいようにする時)

例) Subject に 「TXCL:T1A0/71/5」と記述 教科書分類

- ② 日本語(利用者にその記述が何であるか明示したい時)

例) Identifier に 「教科書番号:国総-038」と記述 教科書番号

- (5) 記述内容が決まっている項目は、統制語彙を決める。

学校の種別など記述内容が限定されるものについては、記述する語句を決めて(統制語彙)、標記のゆれが無いようにする。

例) 「高等学校」は「高等学校」と記述し「高校」などとは書かない。

なお、統制語彙が決まっている項目においても、統制語彙の中に適切なものが無い場合はフリーワードを記述することができる。

例) 「尋常小学校」など現行の学校制度にないもの。

4. 各項目の記述

- (1) 教育情報の種別・教科書指導書の別など

記述要素: Subject

接頭辞 : ETYP

例) Subject ETYP:教師用指導資料

Subject ETYP:教科書

そのほか、教育情報の種別を同様に表現する。

例) Subject ETYP:講義用資料

Subject ETYP:教材

Subject ETYP:教育実践

「教科書」、「教師用指導資料」、「教材」、「講義用資料」、「教育実践」、「貴重資料」、「教育関連論文」の7つが基本で、必ずいずれか一つは付与するものとする。複数に当てはまる場合及びさらに細分化した資料種別を付与したい場合は、繰り返して記述する。

※ これにより、教育情報は少なくとも、ETYP が一つ以上振られることになり、ETYP を持つものが「教育情報」と判断できる。

(2) 教科書分類記号

記述要素: Subject

接頭辞 : TXCL:

教科書標準分類とそれに準拠した分類

※ 大学の間で、多少のバリエーションがあるが許容する。

この項目の付与は任意で(すべての資料に振られているわけではないため)、教科書分類を付与している場合に入力する。

例) Subject TXCL:T1A1/1E74/Ta84

(3) 学校等種別

記述要素: Subject

接頭辞 : STYP:

現行制度での学校は統制語彙を用いる。

旧制については、当面、それが分かるように統制されないキーワードを入れる。

例) Subject STYP:小学校

Subject STYP:高等学校

Subject STYP:尋常小学校

※ 複数に該当する場合は繰り返して記述する。大部分の校種に該当し、学校等種別で絞れない場合は記述を省略できる。

(4) 教科・領域

記述要素: Subject

接頭辞 : SSUB:

学校の教科については記述内容を統制語彙とする。

例) Subject SSUB:国語

Subject SSUB:算数

※ 研究の内容を表す「環境教育」等のキーワードは接頭辞を付けずに記述する(通常のキーワードとして記述する)。複数の教科に該当するものは、項目を繰り返して記述する。すべての教科に該当する場合など教科で絞れない場合、記述を省略できる。

(5) 学年

記述要素: Subject

接頭辞 : SGRD:

記述内容は統制語彙とする。就学前・生涯教育も考慮し、年齢・年代での記述も許容する。

例) SGRD:小 6

SGRD:中 2

SGRD:高 3

SGRD:1 歳

SGRD:30 代

※ 複数の学年に該当するものは、項目を繰り返して記述する。学校種別が小学校で、すべての学年に該当する場合など学年で絞れない場合、記述を省略できる。

(6) 教科書番号

記述要素: Identifier

接頭辞 : 教科書番号

接頭辞は利用者にも分かるように日本語を利用

例) 教科書番号:国総-038

(7) 日時情報 (教育実践の実施日, 学位取得年月日など)

記述要素: Date

接頭辞 : なし。ただし、日付の最後に()で何の日付かを補記。

例) 実践日付

date YYYY-MM-DD (practiced)

例) 検定日付(教科書)

date YYYY-MM-DD (authorized) ※年度ではない

例) 使用年度(教科書)

date YYYY-MM-DD (approved)

(3 ヶ年使用されたらくりかえしで3 ヶ年記述。範囲のように記述しない)

[実践・調査等が一定の期間にわたる場合]

- coverage.temporal に原情報に従って記述。接頭辞も「実践期間」のみには限定せず「調査期間」, 「実施期間」なども許容する。
- date には開始日付を記述。

例) coverage.temporal 実践期間:2005 年 4 月 1 日~2006 年 3 月 31 日

date 2005-04-01 (practiced)

※ date は、検索の便宜のため標準的な形式とし、coverage.temporal については、資料に記述されているとおりの形式等、記述のバリエーションを認める。

例) coverage.temporal 調査期間:2007 年 11 月 - 12 月

(8) 実施機関とその所在

記述要素: **coverage.spatial** (標準的なメタデータ項目があるので修飾子も決める)

接頭辞 : 実施機関、実施場所、など

正式名称を記入。所在地を()で補記することを推奨(都道府県+市区町村の形式推奨)。

機関に限らないため「実施場所」などの接頭辞のバリエーションを許容する。

例) 実施機関:東京学芸大学(東京都)

実施機関:東京都立両国高等学校(東京都墨田区)

実施場所:東京都

(9) 国に関する記述(教科書の使用国等)

記述要素: **coverage.spatial**

接頭辞 : 出版国

NC 出版国コードの英語記述に準じて入力する。

例) 出版国: Japan

出版国: United Kingdom

(10) 発行所

データ要素: **Publisher**

接頭辞: なし

出版社として、ダブリンコア準拠で記載。